

郵貯を食いつぶす特殊法人

わずか七十七特殊法人の赤字は百兆円を超えています。ここまでは赤字をふくらませてこられたのは、大蔵省資金運用部が財政投融资（国家予算の約半分にあたる）の制度を使って郵貯や年金などの資金を特殊法人に垂れ流して来たからです。三百兆円とも言われる郵便貯金。それに加え簡保・年金の資金を使って、官僚たちは談合・天下り・法外な退職金など、自分たちの利益を死守してきました。

二〇〇一年度、財政危機の深刻化と国民の大きな批判の

声にさらされた結果、大蔵省資金運用部は廃止。郵貯などは金融市場で運用し特殊法人は財投機関債を発行して資金調達することになりました。しかしその結果、自己調達できた資金はわずか三%。足りない分のほとんどを政府が財投債を発行して、郵政公社などに買わせ、調達してやっているのです。

小泉「改革」は看板だけ

小泉政権の「改革」が民間の参入と官僚の無駄遣いをなくすことならば、財投債の発行を見直すべきではないのでしょうか。郵政改革も、郵貯

部門を売却または縮小・廃止する方が理にかなっています。民営化という看板のすげ替えは官僚支配の新しい隠れ蓑をつくるペテンにすぎません。



**盛岡市議会議員
いせ志穂 (市民会議)**

事務所 盛岡市青山3-29-4 〒020-0133
電話・FAX 645-8510

自宅 盛岡市前九年1-9-26 〒020-0127
電話 646-5396

<http://www.nnet.ne.jp/~ise/> E-mail: ise@nnet.ne.jp
発行 2005.8.15

**チャンス到来!!
小泉官僚主導政権を終わらせよう**

青山駅グラウンドワークが実現します!
「ずっと暮らしたい」と思える街をみんなの手でつくろう

来年三月一日、IGR・いわて銀河鉄道青山駅が開業。また、保存運動が起きていた青山小学校隣の被覆練兵場（通称赤レンガ）を盛岡市は国との土地の等価交換によって取得。歴史的建造物活用の方法を検討していくこととなりました。

「ぜひ、ご参加下さい。」
（連絡先 090・2973・4035金野）



新駅の周辺整備について意見を聞く会
(4月10日 青山三丁目公民館)

「グラウンドワーク」とは、住民・企業・行政が一緒に、地域の身近な環境の整備・改善に取り組む活動です。昨年

道路の「穴ぼこ」など不具合を教えてください

冬期の凍結などにより、道路の破損が目立ちます。道路の穴などのせいで事故が起きる前に補修が必要です。

盛岡市では職員によるパトロールを行っていますが、全域に目が届くわけではありません。道路の「穴ぼこ」など不具合を教えてください。補修が必要な部分に気づいたら、いせ志穂事務所までお知らせ下さい。

その他にも、市政全般についてご要望をお聞きいたしますので、お気軽に電話・メールを下さい。

お手伝いとカンパのお願い

いせ志穂事務所と市民会議はボランティアとカンパで運営されています。議員歳費の多くを活動につぎ込んできましたが、やるべき事が増える一方、議員歳費を減額。それにともない赤字が続いています。(このニュースも経費削減のため今号から伊勢が配達しています。)ニュースを知人やご近所に配っていただけの方は、ぜひご協力をお願いします。

また、このご時世大変心苦しいお願いですが、カンパもよろしく
お願いします。 郵便振替口座 02230-8-52327 伊勢志穂



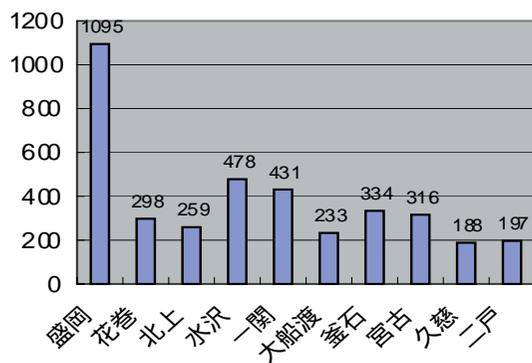
岩手県立中央病院にホスピス（緩和ケア）病棟の設置を

○六年県立磐井病院に設置予定。盛岡は…？



岩手にホスピス設置を願う会の川守田代表による要請書提出

2004年 地域別がん死亡者人数



う見解です。

需要という点から、私は盛岡市広域圏にホスピス施設が必要だと思えます。家から離れた施設は、患者やその家族に必要な以上の負担をかけますし、空き病床が多ければ結果として財政のムダを生むことになるからです。

県立中央病院の現状

県立中央病院は「ガン診療拠点病院」として県内最多のがん患者を抱え、緩和ケアに積極的です。医師・看護師で緩和ケアチームをつくり患者の要望に応えています。

しかし、現在のやり方には限界があります。看護師一人あたりの患者数や一部屋あたりのベッド数など、厚生省が



樋口県立中央病院院長と懇談する岩手にホスピス設置を願う会役員

県医療局は「ホスピス施設の必要性については十分理解している。しかし、県予算の厳しい現状から、県立病院立替の際に合わせて設置したい。花巻・北上の統合病院にも設置を予定している。ホスピス入所を希望する方には、その二つの病院で対応する」とい

☆ホスピス（緩和ケア）

がん末期患者などの肉体的・精神的痛みを和らげる手当。現在岩手県には施設がない。

☆PET（陽電子・放射・断層撮影装置）

全身のガンや、脳・心臓の働きを断層画像として処理し、病気の原因や病状を的確に診断する新しい検査装置。

定める普通病棟の基準では充分なケアが出来ないので。

「不安な心情をうちあげた

いけれど、忙しい看護師さんを自分一人が独占するわけにはいかない」「六人部屋では人目が出せられない」など、特に精神的な面で難しい部分があり、医療従事者もホスピス病棟の必要性を訴えており、中央病院としても、ホスピス病棟の設置とPETの導入を岩手県に対して要望しているのです。

問題は税金の使い方

県立中央病院の樋口絢院長は「ホスピス病棟設置を望んでいる人たちはとても多いと

思う。県民の税金だから、それを何に使っていくかは政治判断だ」と言い切ります。

中央病院へのホスピス病棟設置に係る費用は約十億円。私は岩手競馬の存続に五十億円使うよりも有効な使い方ではないでしょうか？

緩和ケアハンドブック

岩手にホスピス設置を願う会が高齢者保健福祉基金助成事業からの補助金で五百部作りました。ご希望の方にお送りします。（送料自己負担）

残部がわずかになってきましたので、お急ぎでない方には秋以降刷り上がり予定の第二版をお送りする場合があります。ご了承を。

申し込み・お問い合わせは 019・645・8510

チエックできない 岩手競馬再建計画

契約内容の公開を拒否

巨額の赤字を抱える岩手競馬組合はテレトラック施設を民間に貸し出す計画で、すでに三施設は賃貸が決定し、二施設が交渉中です。

六月の市議会で「競馬組合の再建計画について検証するため、この契約内容を知らせて欲しい」という質問がありました。しかし、盛岡市からのこの質問に競馬組合は「今後の賃貸契約に差し支える」と回答を拒否。

これでは岩手競馬組合再建計画の進行度合や整合性について、市議会ではチエックが出来ないこととなります。

またしても無責任体制に

岩手競馬の売り上げが低下し始めたのは十三年前。歳入不足に陥ったのは五年前からです。しかし、広範な岩手県民が抜本的な対策の必要性を

感じたのは、今年度予算で、県・盛岡市・水沢市による一般会計からの貸し付けが決定する過程を通してだったのではないでしょうか。岩手競馬問題を通して感じるのは、その「無責任性」です。最終的な経営責任者は知事に他なりません。事務組合という経営体系故に直轄の責任者が非常に解りづらいたと思います。

積極的な情報の公開を

現在の競馬組合のやり方は、再び同じ轍を踏んでしまおうのではと、私は大変不安です。岩手競馬の必要性も含めて、県民による検証がさらに進められなければなりません。だからこそ、競馬組合は責任者の状況と経営状況を公開しなければならぬと思います。